

第6回 月崎A遺跡 (飯坂町)

飯坂温泉街の入り口、摺上川の支流である小川の北側段丘上にあります。弥生時代、平安時代、さらに中世の遺構・遺物も発見されましたが、縄文時代では、縄文時代中期(約5,000年前)を中心に、晩期の中頃にかけての遺構・遺物で竪穴住居跡や土坑が中心です。

縄文時代中期、約1000年間にわたる住居が発見されています。住居の中につくられた炉は4種類発見され、中期の初めの頃は、住居の床の一部分で火を焚いていた地床炉じしょうろと呼ばれた炉、中期の中ごろには、こぶし大の川原石を並べて、火を焚く部分を決めた石囲炉いしがこいる、やがて複式炉ふくしきろと呼ばれる巨大な炉に変化していくのがわかりました。

遺物では、土器や土偶が大量に発見されています。新潟県や北陸地方との交流を示す土器が見つかり、ヒスイ製の装飾品も出土しています。



▲ヒスイ製大珠 (大きさ 6.3cm、重さ 133g)



▲石囲炉と(上段)土器埋設石囲炉(下段)



▲北陸地方との交流を示す土器(新崎式土器)



★★ 次回は、宇輪台遺跡(松川町)を紹介します。おたのしみに。★★

用語解説

「翡翠製大珠」

翡翠は硬玉とも呼ばれ、縄文時代には新潟県の糸魚川市姫川周辺で産出する翡翠が首飾りなどの材料として使われていました。

前期には大小の磨製石斧など実用品に使われましたが、中期になると大型の首飾り(大珠)のように権威の象徴としての利用が増加しました。



「縄文時代の炉」

縄文時代には、調理や暖房・照明などのために竪穴住居の中で焚火をすることがありました。

火をたく場所を「炉」とよびますが、炉には、①地床炉じしょうろ(土間床で火をたく場合)、②石囲炉いしがこいる(火をたく場所のまわりに石を列べて区画する)、③土器埋設石囲炉どきまいせつ いしがこいる(石囲炉の中に土器が埋めてある)、④複式炉ふくしきろ(石組みと縄文土器を組み合わせた大型の炉)などがあります。



住居の中央部分が炉(石囲炉)▲

「じょーもぴあ・遺跡の案内人」募集の記事が、市政だより・福島民報・福島民友に掲載され、早速、関心を持つ市民の方から問い合わせをいただきました。

会員は現在37名、10月からは新規会員8名が加わり、平成27年度の開園に向けて、様々な研修や縄文体験活動のサポート等に取り組んでいきます。

じょーもぴあ宮畑では8月から除染工事が始まりました。安全な環境に配慮し、「楽しく学べる公園」を目指して、地道な作業が続いています。

編集後記



じょーもぴあ 宮畑

発行：じょーもぴあ・遺跡の案内人 編集：じょーもぴあ・遺跡の案内人 だより編集班

事務局：福島市教育委員会 文化課 960-8601 福島市五老内町3番1号 024-535-1111 内線 5375・5376

★「じょーもぴあ」とは「縄文時代を身近に感じられるユートピアのような場所」の意味です。

じょーもぴあ活用推進協議会が発足しました

じょーもぴあ活用推進協議会とはどんな団体？

【じょーもぴあ活用推進協議会】

平成24年7月1日「じょーもぴあ活用推進協議会」が発足しました。

じょーもぴあ活用推進協議会は、44名の団体や個人会員により構成されており、平成27年度のじょーもぴあ宮畑の開園に向け、東部・大波活用委員会では、地区イベントや子供イベントの企画、物産販売や東部ブランドの検討、じょーもぴあ宮畑グッズ試作品の検討をします。また、市民活用委員会では、おもてなしイベントや縄文時代に関わるわくわくイベントを検討し、じょーもぴあ宮畑の魅力伝えていきます。

平成24年度は、平成25年度のじょーもぴあ宮畑の一部開放に向けた現地イベントの検討、平成23年度に引き続いてじょーもぴあ宮畑グッズ試作品の製作に向けた検討会等を開催し、じょーもぴあ宮畑を盛り上げていく予定です。

市民活用委員会

趣味を活かしたおもてなしイベントや縄文時代に関わるわくわくイベントを検討します。

- わくわく空間検討会
・宮畑グッズ
・わくわくイベント

東部・大波活用委員会

地域づくりに関わるイベントや物産販売に関する事業を検討します。

物産販売部会 地域づくり部会

- ・朝市
・東部ブランド
・物産販売の検討
・地区イベント
・こども行事
・地区見学会等の検討



平成23年度のグッズ検討会(左)、完成したじょーもぴあ宮畑グッズ試作品(中央、右)

じょーもぴあ活用推進協議会 会長あいさつ 羽田清久

じょーもぴあ活用推進協議会は、じょーもぴあ宮畑がふるさと自慢のひとつとして、市民の皆さんに愛される施設となるように、また、地域の活性化、観光振興での活用を図ることができるよう設立したものです。

そのためには、じょーもぴあ宮畑ならではの魅力を提供し、多くの誘客を図ることが必要です。平成24年度には園内の除染が完了する見込みで、平成27年のじょーもぴあ宮畑の開園へ向けて、多くの市民の皆さんにじょーもぴあ宮畑を知っていただき、開園が待ち遠しくなる盛り上がり醸成されるような活動を進めていきたいと考えております。

## じょーもぴあ・遺跡の案内人の活動紹介

### 縄文探検隊の活動補助

市内の小中学生 68 名が縄文探検隊に参加し、7月～10月にかけて5回の縄文体験（勾玉作り、土偶作り、弓矢・火おこし体験）や山形県への遺跡探検の旅を実施しました。

じょーもぴあ・遺跡の案内人では各回の活動補助や遺跡探検の旅での引率を行いました。



遺跡探検の旅(長井市 長者屋敷遺跡)

なかなか火が着かない。  
縄文人はすごいなあ！



火おこし体験の様子

### 県内施設の視察研修

平成24年度は郡山市の大安場史跡公園、白河市のまほろんの視察研修を行い、大安場史跡公園では、ボランティアの方による案内ガイドを受けたり、じょーもぴあ・遺跡の案内人との意見交換会を行いました。

案内ガイドのポイントは、笑顔での対応です！



大安場史跡公園(郡山市)



まほろんでは県内の遺跡の紹介や体験活動ができます。

まほろん(白河市)

## 宮畑遺跡の発掘から整備まで 第5回「平成9年度の調査②」

前回(第5号)で書いたように、平成9年度の調査は工業団地内の道路改良にともなう調査でした。当初は予想通り縄文時代後期から晩期にかけての縄文時代後期・晩期の調査でしたが、その地層の下に縄文時代中期の大集落が埋もれていることがわかりました。

縄文時代中期の集落から見つかった住居は、直径4m～5mほどの円形の竪穴住居で、『複式炉』とよばれる石と縄文土器を組み合わせた大型の炉を持っています。宮畑遺跡では、竪穴住居が重なりあうように密集して見つかっています。



▲複式炉を伴う竪穴住居

また、竪穴住居の中にたまっている土を詳しく調べたところ、住居は土屋根(草葺きの上に土をのせている)だったことや、市内ではこれまでほとんど見つかっていない、焼失した家がたくさんあることもわかりました。



▲焼失した竪穴住居(中に焼けた土と炭がたまっている)

今回は縄文時代後期・晩期の調査成果と、工業団地造成や道路建設の見直しのきっかけとなった大型掘立柱建物について紹介します。

## 整備の様子をのぞいてみよう 第5回

### じょーもぴあ宮畑にはどんな建物ができるの？

じょーもぴあ宮畑には、体験学習施設という施設の建設を予定しています。

体験学習施設は2階建ての建物で、1階には、宮畑遺跡や縄文時代についての展示室、勾玉作りや土器作りなどができる体験工房、視聴覚室のように映像を見たり、講演会を行う多目的室、図書コーナーなどを設置します。2階は遺跡を望むデッキがあり、遺跡の全体が見渡せます。



▲立派な体験学習施設ができる予定です

### じょーもぴあ宮畑では何ができるの？



- 小さなお子様や家族連れでの利用ができます。
- 縄文時代の自然環境にふれあい、遊べます。
- 縄文時代や宮畑遺跡に関わる学習ができます。
- 勾玉作りや弓矢体験などの縄文体験ができます。



じょーもぴあ宮畑の環境放射線測定値 <http://www.city.fukushima.fukushima.jp/>市ホームページに掲載しています

じょーもぴあ宮畑は現在除染工事中です。除染工事は平成25年3月に完了予定です。  
除染工事中(9/11)：0.26 ← 除染工事前(9/4)：1.52 マイクロシーベルト/時間(芝生の広場、地上1m)

## お知らせ

### ふれあい歴史館特別展 「縄文時代の物流」 ～物の移動から見える縄文社会～

市内の縄文遺跡で出土しているヒスイやアスファルトなど、他の地域から持ち込まれた素材、縄文土器の文様から、縄文社会の地域や人のつながりについて紹介します。

- 開催：平成24年10月11日(木)～12月10日(月)
- 場所：ふれあい歴史館2階 企画展示室

■問合せ：文化課 525-3785

### 平成24年度宮畑公開講座 「縄文社会における物流と地域のつながり」 ～アスファルトを中心として～

最近の発掘成果をもとに、特にアスファルトの採取から流通をテーマにした講座を開催します。

- 開催：平成24年11月17日(土) 午後2時から4時
- 場所：市民会館 第2ホール
- 定員：120名(先着)、無料